

東北の次の春に向けて—2021年度東北支部研究発表会の開催報告

村上 早紀子 福島大学

1. 継続してきた研究交流の場

雪解けが進む3月、と言いたいところ、まだまだ雪が残る東北地方、しかもこの日は、筆者が居住する福島でさえ、朝から積雪であった。

日本都市計画学会東北支部では毎年3月、日頃の研究活動や取組事例を報告し、研究交流を図る場として「研究発表会」を開催している。2019年度までは会場に一同に集まり開催されてきたが、2020年度からは新型コロナウイルス感染状況を考慮し、オンラインで開催している。

2021年度の研究発表会は3月6日(日)に開催された。今回は、以下9つのセッションの下、オンライン上で三つの会場が設定され、計42題の研究発表が行われた。

《第1会場》

- セッション1 復興
- セッション2 立地適正化計画・公共施設マネジメント
- セッション3 防災

《第2会場》

- セッション4 中心商店街・中心市街地活性化
- セッション5 拠点・観光・交通・公共空間
- セッション6 集落活性化・就農支援

《第3会場》

- セッション7 住宅・居住環境・空き家活用
- セッション8 景観・歴史まちづくり
- セッション9 産業・都市イメージ

大学4年間の研究の集大成をまとめた卒業研究や、それをさらに発展させた修士論文など、様々な研究成果が披露される機会となった。研究内容を覗いてみても、東北の各地域はもちろん、それを含む全国各地域を対象に調査・データ分析を行った研究もみられ、学生達の若いながらも熱心に研究に向き合い挑んだ姿勢が窺えた。

研究発表会には、約70名にご参加いただいた。中には、東北支部の会員のみならず、東北以外で遠方からも接続してご参加いただいた。また、参加された大学によっては、研究室などに集まって視聴された例もみられたため、実際は上記よりも多くご参加いただいたと推察される。

各セッションでは、活発な質疑応答が行われ、今後の研究の課題や発展が示唆されるやり取りが交わされた。

東北支部としては、こうした研究発表会を継続して実施することで、研究の単なる「交流」に留めるのではなく、東北

地方をはじめとした各地域に対して研究成果を活かしていけるような機会を創出していきたい。

2. 東北の次の春

ところで、東北地方において忘れてはならないのが2011年3月11日の東日本大震災であることは周知の通りであるが、先月で11年目を迎えたばかりである。今回の研究発表会でも「復興」や「防災」のセッションが設けられ、研究発表がされたように、東北支部の会員は学生と共に被災地の復興状況を常にモニタリングし、その結果や課題の情報発信に努めている。次の春を迎えた際、復興がまた一歩進んでいるといった発信ができるよう、東北支部としては今後も外すことのできない、外したくないテーマとして掲げていく所存である。

最後に、研究発表会の余韻に浸りながらではあるが、次年度以降の東北支部企画を紹介したい。第一弾は4月2日(土)、東北支部総会および講演会を開催する予定である。このうち講演会はテーマを「東北の都市計画・まちづくり」とし、弘前大学の北原啓司教授、長岡技術科学大学の中出文平教授にご講演をいただく。両氏はこれまで東北地方をはじめとした全国各地の都市計画にご尽力されてこられたところ、2021年度末に定年を迎え、各大学で最終講義をされた。これまでの都市計画との関わりや、東北支部の設立経緯などに関して、たっぷりとお話いただく予定である。残念ながら本誌が出版される頃には既に開催を終えているため、別の機会に開催結果を報告させていただきたい。

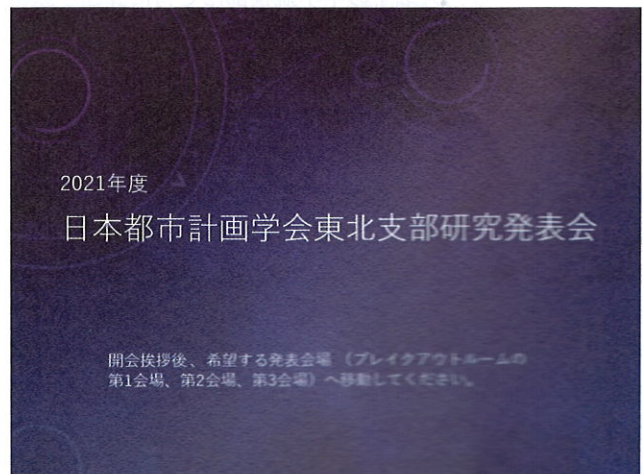


図1 東北支部研究発表会当日の全体写真